



2015年3月12日

報道関係者 各位

早稲田大学

真実を伝え続ける絵画 —アウシュヴィッツに生きたM・コシチェルニャック展—

2015年は、第二次世界大戦終結から70年。世界の各地で、戦争の悲劇を思い出し、「二度と繰り返さない」という誓いを新たにする行事が開催されます。

2015年1月27日、ポーランドのオシフィエンチムでは、『「アウシュヴィッツ=ビルケナウ ナチス・ドイツの強制絶滅収容所（1940年-1945年）」解放70周年記念式典』が行われ、世界各地から、ホロコーストを生きのびた300人を含む、多くの関係者が集まりました。一方で、生存者はみな高齢になり、中には100歳を越す人も見られ、主催者も「これだけ多くの方が集まる最後の機会になるだろう」と話すなど、歴史を風化させることなく、早急に特に若い世代に史実を語り継ぐことは急務です。

その節目の今年、ポーランド広報文化センター・駐日ポーランド共和国大使館の共催、野村路子氏のご協力により、下記展覧会・シンポジウムを開催することになりました。是非、貴紙紙面でご紹介いただきたくご案内申し上げます。

<企画展：M・コシチェルニャック絵画展>

期 間： 2015年3月24日～4月23日／10：00～18：00（日曜休館）
会 場： 早稲田大学 早稲田キャンパス26号館大隈記念タワー10階 125記念室

<開幕式：挨拶およびテープカット>

日 時： 2015年3月24日（火）11：00～11：15
会 場： 大隈記念タワー（26号館）入口前広場（※雨天時は建物内ホールで実施）
出席者： ツィリル・コザチェフスキ駐日ポーランド共和国大使、マルタ・カルシ ポーランド広報文化センター副所長、鎌田薫早稲田大学総長、野村路子氏（絵画所有者）他

<シンポジウム：「アウシュヴィッツ」は今、私たちに何を語るか>

日 時： 2015年4月18日（土）13：00～17：30
会 場： 早稲田大学 戸山キャンパス36号館 382教室
挨 拶： ツィリル・コザチェフスキ駐日ポーランド共和国大使
基調講演： 野村路子 作家
パネリスト： 武井彩佳 学習院女子大学准教授、古矢晋一 早稲田大学非常勤講師、
宮崎 悠 北海道教育大学専任講師
コーディネーター： 大内宏一 早稲田大学文学学術院教授

※開幕式、シンポジウムに参加を希望される場合は、次ページのフォームで出席者名をお知らせください。



<企画展の絵画とアウシュヴィッツ>

絵画の作者であるコンチェルニャック氏は、アウシュヴィッツ収容所内の工房で、画家として「仕事」をしていました。彼を含む一部の画家たちは、暴虐と殺戮の繰り返される過酷な環境にしながら、命がけで真実を描き続けました。

展示作品の中には、日本でもよく知られるコルベ神父の最期までを描いた絵や、1945年に移送先の収容所を解放したアメリカ軍の最高司令官（当時）のアイゼンハワーとパットン大佐の姿を描いたものもあります。これらは、芸術的価値だけでなく、歴史的にも大きな価値のあるものです。

今回の企画展では、同時期にアウシュヴィッツの工房にいた画家仲間の、ヤン・コムスキーの絵の複製も合わせて展示します。

<企画展と早稲田大学>

コンチェルニャック氏の絵 19 点は、同画家の没後、その夫人から、ホロコーストの生存者からの聞き書きを続けてきた野村路子氏に託され、約 20 年間各地で展覧会を開きながら大切に維持されてきました。しかし、画家の魂を「里帰り」させて上げたいという野村氏の思いから、この度、ポーランドに寄贈することとなりました。そこで、絵画がポーランドに「帰国」する前に、野村氏の母校である早稲田大学で絵画展を開催する運びとなりました。

<絵画所有者である野村氏のコメント>

「日本では、最後の展覧会になるだろうと思います。戦後 70 年が過ぎましたが、世界のあちこちで紛争やテロは絶えません。そんな時だからこそ、多くの方、とくに戦争を知らない若者たちに、この絵の前に立ってほしいと思います。」

◆企画展内容問合せ： 早稲田大学文化推進部文化企画課 電話 03-5272-4783 Fax 03-5272-4784

— 取材申込 —

ご多忙の折とは存じますが、ご取材の場合は下の取材申し込み欄にご記入いただき、Fax にて **3月23日（月）正午まで**にご連絡ください。なお、駐車場はございませんのでご了承ください。

FAX送信先：広報室広報課宛 03-3202-9435

貴社・部署名			お名前	
Email				
電話番号				
取材希望日 (○をしてください)	1. 開幕式 (3/24)	2. 絵画展 (月 日希望)	3. シンポジウム (4/18)	